

4K作品「奥会津に生きるー自然と暮らしの暦ー」  
映文連アワード2021コーポレートコミュニケーション部門優秀賞受賞



株式会社コスモ・スペース（代表取締役社長：市川精也、以下当社）は、東北電力「奥会津水力館みお里 MIORI®」にて上映中の4K作品「奥会津に生きるー自然と暮らしの暦ー」にて、映文連アワード2021コーポレートコミュニケーション部門優秀賞を受賞いたしました。

「奥会津水力館みお里」は、東北電力の草創期から大規模な水力発電による電源開発が行われた只見川を望む福島県大沼郡金山町に建設され、2020年7月のオープン以来、水力発電の歴史的意義や再生可能エネルギーの活用に向けた取り組み、奥会津地域のさまざまな魅力などを紹介するとともに、地域の活性化にも貢献する施設として運用されています。

本作を制作するにあたり、当社は1年にわたって奥会津の7町村をめぐり、地域の方々と語り合いながら、豪雪地帯に生きる人々の知恵や楽しみをレンズに捉えていきました。急峻な山並みの間をぬうように流れる只見川が魅せる多彩な表情をドローン撮影によってダイナミックに切り取り、奥会津の魅力を立体的に感じていただける作品となりました。

【スタッフ・リスト】

プロデューサー 和田初海（株式会社コスモ・スペース）

プロダクションマネージャー 橋詰和幸、上田響子（株式会社コスモ・スペース）

ディレクター 清水 艶（Supernova 株式会社）

撮影 浪谷昇平、四宮秀俊、平野晋吾（フリー）

ドローンオペレーター 土師翔太（フリー）、橋詰和幸（株式会社コスモ・スペース）

われわれは映像作品を通じて、撮影技術だけでなく、ナレーションに込めた一つ一つの言葉を研ぎ澄ませ、見る人のこころに残るメッセージ性の高い作品づくりを心がけています。



#### 【作品概要】

豪雪地帯である奥会津の長い冬から物語は始まります。春の雪解けは、もう次の冬に向けた準備でもあります。人々は代々受け継いだ田畑を耕し、山の恵をいただく時は野山への感謝を忘れません。伝統織物の原料となる“からむし”栽培、いまや地域一番の観光名物となった檜枝岐歌舞伎、幻想的な川霧や貴重生物の宝庫である湿地など、魅力的な奥会津ならではの風物の数々。村人の素朴な言葉の端々から真の豊かさの源泉が溢れます。

#### 【映文連アワードとは】

プロフェッショナルの仕事にふさわしい作品を積極的に発掘・顕彰することによって短編映像業界の活性化を図るとともに、次世代を担う新しい才能（学生・個人）を発掘し、映像業界のインキュベータとしての機能を担うことを目的として、公益社団法人映像文化製作者連盟（略称：映文連）の主催により、2007年に創設されました。

コーポレート・コミュニケーション部門：企業のアウトター・ブランディング、インナー・ブランディング等を目的とし、産業または企業文化を伝えるための作品を対象とします。

映文連のリリース情報：[https://www.eibunren.or.jp/top/eibunren-award2021\\_4.html](https://www.eibunren.or.jp/top/eibunren-award2021_4.html)

---

<本件／取材に関するお問合せ先>

株式会社コスモ・スペース IMAGICAクリエイティブ本部

担当：和田 初海

Mail：info@cosmospace.co.jp TEL：03-3263-7201（代） FAX：03-3263-7203